

都合の悪い情報を探してきたマスコミ 多様な情報に触れ、批判の目を養うこと

マスコミは社会において重要な役割を担っているが、商業主義に偏り、既得権益を守ろうとしたり、都合の悪い真実は隠そっとしたりして、様々な問題点が露呈してきている。

印象操作や情報操作を行っている

最近の日本は様々な問題が山積しているが、マスコミの問題も非常に重大である。

「マスコミは第四の権力」という話をよく聞く。立法、行政、司法に加えて、権力を監視するマスコミは重大な役割を果たしていると言われる。

問題のは、彼らが国民の審判を受けない点である。

安倍元首相に対する執拗な攻撃、そ

の安倍元首相が明らかに暗殺されたにも関わらず、「暗殺」という言葉を一切使わない行為、安倍元首相暗殺の原因を統一教会の問題にすり替え、なぜか自民党へのバッティングを続けていることも記憶に新しい。それに加えて、昨年から続く兵庫県知事に対する際限のないバッティング、今年の夏の参議院選挙が近づくにつれて行われだした参政党へのバッティング等、挙げればきりがない。

このような状況で一番得をしているのは誰か。中国である。

つまり、中国に都合の良い人物であれば「良い人物」であると報道し、中国に都合の悪い人物は、問題をでっちあげて執拗にバッティングするのである。問題は、それによって、政局や政策が



オールドメディアの衰退が叫ばれている。信頼性の向上が課題。

変わってしまうことだ。安倍元首相が高い支持率をもっていたにもかかわらず、バッティングに耐えかねて辞任した一方石破首相は選挙で2回も大敗しているのに、マスコミの擁護によつて延命されている。

面白いことに、最近、韓国のYouTuberが、現在、韓国で全く同じことが起きていたと話していた。マスコミが中国を礼賛し、大学には中国人留学生だらけ。中国依存から脱却しようと試みる勢力に対しては、事件をでっちあげでも徹底的にバッティングをする。中国は、世界中の国々に対して、侵入しやすいところから入り込み、その国内を牛耳ろうとしている。多くの国が大学、司法、マスコミに付け入る隙があり、そこに上手に侵入することで中国の利権を拡大しようとする。日本も、まさにその三つから中国に侵略されている。

最近、欧米はその深刻さに気付いた。トランプ大統領がハーバード大学の中国人留学生を一掃したことは記憶に新しいし、イギリスでも中国人留学生は激減したという。中国の「サイレント

インベーディション」に気づいた彼らは、遅まきながら対策を始めたのだ。

ところが、日本は、「ハーバード大学から排除された中国人留学生を受け入れる」と発表した。親中政権の面目躍如といったところだろうか。

大学とマスコミを抑えればその国の言論を支配できる。日本は、第四の権力を中国に明け渡してしまった。彼らは日本国民の審判を受けることなく、気に入らない政権を潰したり、目障りな人間を社会的に殺したり、気に入つた政権を延命させたりできるのだ。

忍び寄る脅威の認識を

このようにマスコミが外国に支配されてしまった後、我々にできることはネットで世論を盛り上げることであるが、それに対してもマスコミは敵対心を露わにしている。兵庫県知事をバッティングしても民意を覆せなかつた後、彼らは一斉にネット規制の必要性を説き始め、政府はネットの自由な意見交換を規制する法案を閣議決定した。言論の自由がなくなり、中国に不利なこ

とが一切できなくなつた国、中国人が一番優遇される国は、既に中国と言えるのではないか。最近も、従来中国からアメリカに大量に密輸されており、アメリカが最も警戒している薬物フェンタニルの密輸施設が名古屋で発見されたが、それも殆ど報道されず、日本政府の取り締まりも無きに等しい。

米中戦争が盛んな機運を利用して、今日日本に巣食つた中国勢力を一掃しないと、日本にはウイグルやチベットのような未来が待ち受けている。

我々にできることは何か。まずは、マスコミが徹底的に叩いている人物を調べ、叩く根拠が薄弱な場合は、その人物を大いに応援することである。また、そのようなマスコミに同調する人物、政党をよく覚えておき、絶対に投票しないことである。マスコミがある人物を不自然に叩くとき、多くの場合、その人は日本のためになる人物であることが多いのだ。

幸い、日本は、まだ日本人が大多数を占めている。今のうちに、マスコミを無力化しないと、悲惨な未来が待ち受けている。

（増田千代）